

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体育) / 梅野 圭史

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容: 授業実践は、言うまでもなく、総合科学的な営みである。これより、私が担当している授業科目において、教育学と運動学と絡めた授業内容、および体育科と他教科を絡めた授業内容を体系化し、授業を展開させる所存である。
②授業方法: 講義、演習、実技といった授業方法カテゴリーにとらわれず、これら3つの方法を総合的に展開させたい。
③成績評価: 出席点も重要であるが、やはり試験による客観的な方法により評価する。このとき、単位取得に届かない者については、再試験を課し、学力の向上に資する所存である。

2. 点検・評価

受講生が170名ときわめて多い授業である「体育科教育論」に対する学生評価点が「4.2点」と高かったことから、今年度の目標は達成できたものと考えている。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学部授業では、体育科教育論の受講生がきわめて多いことから、講義のあり方を工夫する必要がでてきた。そこで、毎授業後に小テスト形式で「体育授業実践問題」を投げかけ、学生の実践意識を高めたい。
- ②大学院では、「保健体育科教育学研究」の講義内容を全面的に改訂した。すなわち、外部からの入学者である大学院生に理解しやすいように、学術的な内容よりも、実践的な内容へと変更した。とりわけ、運動教材の分類法と課題解決的学習法を重視した。
- ③博士論文指導では、主指導教員としての学生の指導に尽力したい。
- ④学生生活支援では、これまでのとおり、男子および女子のバスケットボール部の指導に尽力したい。

2. 点検・評価

- 中間報告のとおりである。
- ③にk関しては、3月下旬に美波町で合宿を行い、よい手ごたえを得ている。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- 現在、私の研究分野は大きく分けて3つある。1つめは身体教育学の構築に資する哲学的研究分野であり、2つめは教師教育研究、とりわけ職能発達支援研究であり、3つめは体育授業の学習成果を高める授業の分析的研究である。
- ①身体教育学に関する哲学的考察世阿弥のb稽古論にみる実践論理を探求する。
- ②教師教育研究小学校教師がよい体育授業を展開する上で重要な指導技術の因子構造を経験年数群別に検討する。
- ③体育授業の分析的研究「うまくできない子ども」の協力・共同学習への参画を促す学習指導のあり方を追求する。

2. 点検・評価

- 中間発表のとおりである。③に関しては、一人のすぐれた教師の実践を収集することができた。来年度は、若手の教師の実践を収集し、分析・検討したい。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①本年度は「教科領域専攻長」を拝命した。「保健体育科教育コース長」の業務をしっかりと果たしつつ、専攻長の任務も怠ることなく、専心したい。
- ②連合大学院では、生活・健康系連合教育講座の議長として2年目を迎える。教員資格審査を厳正に行うとともに、連合参加教員を増えるように努力したい。

2. 点検・評価

- ①および②ともに、問題なく、職務を推敲することができた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①民間研究団体「身体教育研究会」の本学への貢献度を高める。具体的には、本学卒業の教員の研究会への参加を促し、よりよい教員となる研修・研鑽システムを拡充する。
- ②小学校教員のための参考書「ボールゲームの指導」を刊行する。
- ③本学におけるコア・カリキュラムの科目である「初等中等教育実践基礎演習」、「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、および「教職実践演習」の一貫性と連動性が担保する必要性から、附属学校の先生にも主旨を理解していただき、授業内容の連動性を高めていきたい。

2. 点検・評価

中間報告のとおりであるが、②の出版が遅れている。残念である。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

中間報告のとおりであるが、阪神地区における体育授業研究会には2回出席し、来年度の本大会に向けての実践方針を固めることができた。